広島県の地震

２０２６（令和８）年１０月

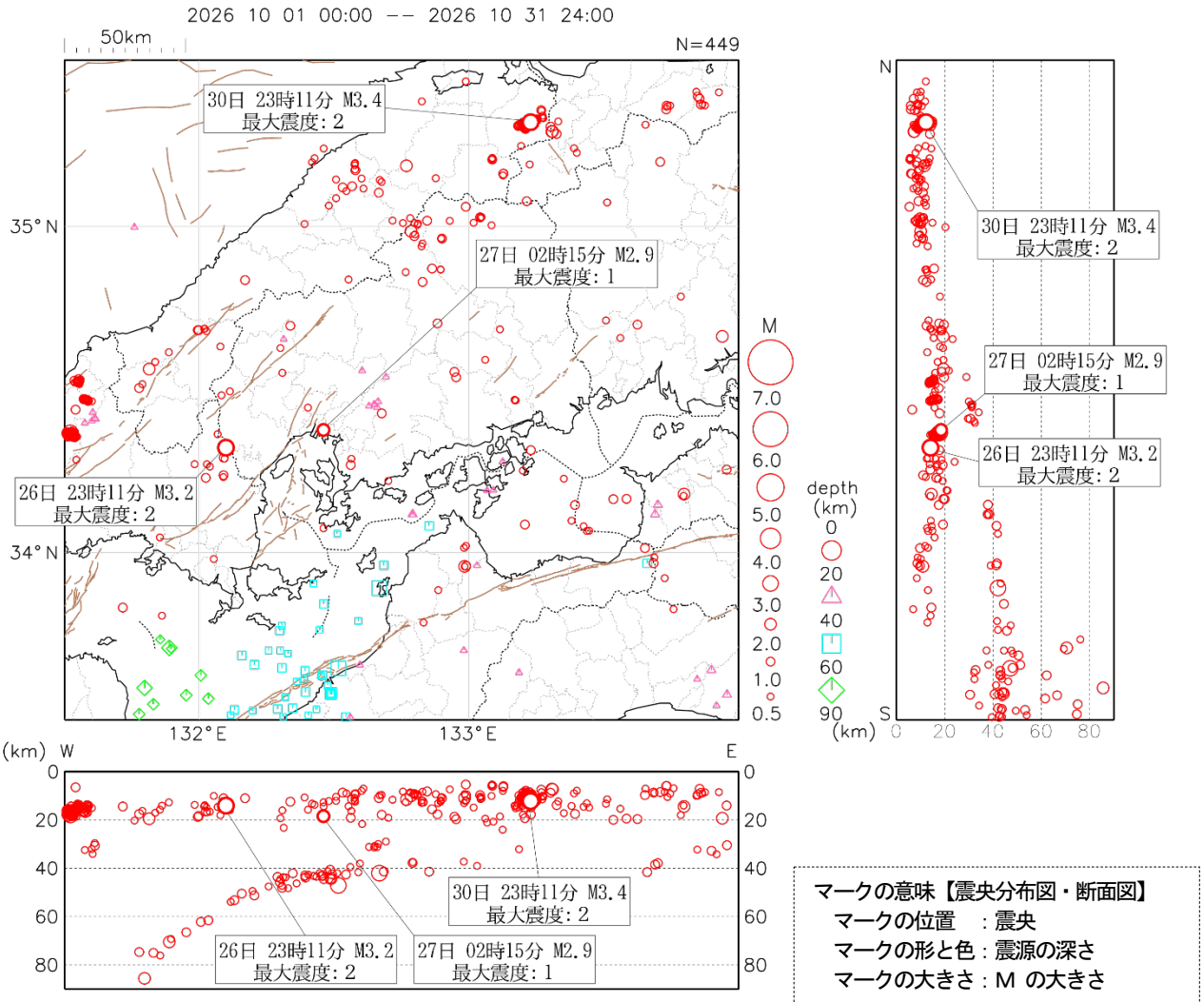
目　次

広島県及びその周辺の地震活動・・・・・・・・・・・・・・・・１
震央分布図・断面図と地震概況
広島県における震度１以上の地震・・・・・・・・・・・・・・・２
震度一覧表と震度分布図
地震メモ　第 262 回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
昭和南海地震（1946 年 12 月 21 日）から 80 年
～その１～

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】　　2026 年 10 月 1 日～10 月 31 日



左上：震央分布図　右上：南北断面図　左下：東西断面図

※　震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。

※　図中の茶線は地震調査研究推進本部 による活断層を表しています。

※　図の右上の”N”は図の範囲内における地震の回数です。

マークの意味【震央分布図・断面図】
- マークの位置　：震央
- マークの形と色：震源の深さ
- マークの大きさ：M の大きさ

※　Mは地震の規模を示すマグニチュードの略です。

凡例（depth）【震央分布図】
- ○ は深さ 0～20 km未満
- △ は深さ 20～40 km未満
- □ は深さ 40～60 km未満
- ◇ は深さ 60～90 km未満

【地震概況】

この期間、広島県内で震度１以上を観測した地震は４回でした（先月は１回）。

25 日 08 時 59 分 日向灘の地震（深さ 7km、M5.2、上図の範囲外）により、熊本県、宮崎県、鹿児島県で震度３を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度２～１を観測しました。広島県では呉市で震度１を観測しました。

26 日 23 時 11 分 山口県東部の地震（深さ 14km、M3.2）により、山口県岩国市で震度２を観測したほか、広島県広島市・大竹市・廿日市市、山口県で震度１を観測しました。

27 日 02 時 15 分 広島県南西部の地震（深さ 18km、M2.9）により、広島県広島市で震度１を観測しました。

30 日 23 時 11 分 島根県東部の地震（深さ 12km、M3.4）により、鳥取県米子市・南部町、島根県安来市で震度２を観測したほか、広島県神石高原町、鳥取県、島根県で震度１を観測しました。

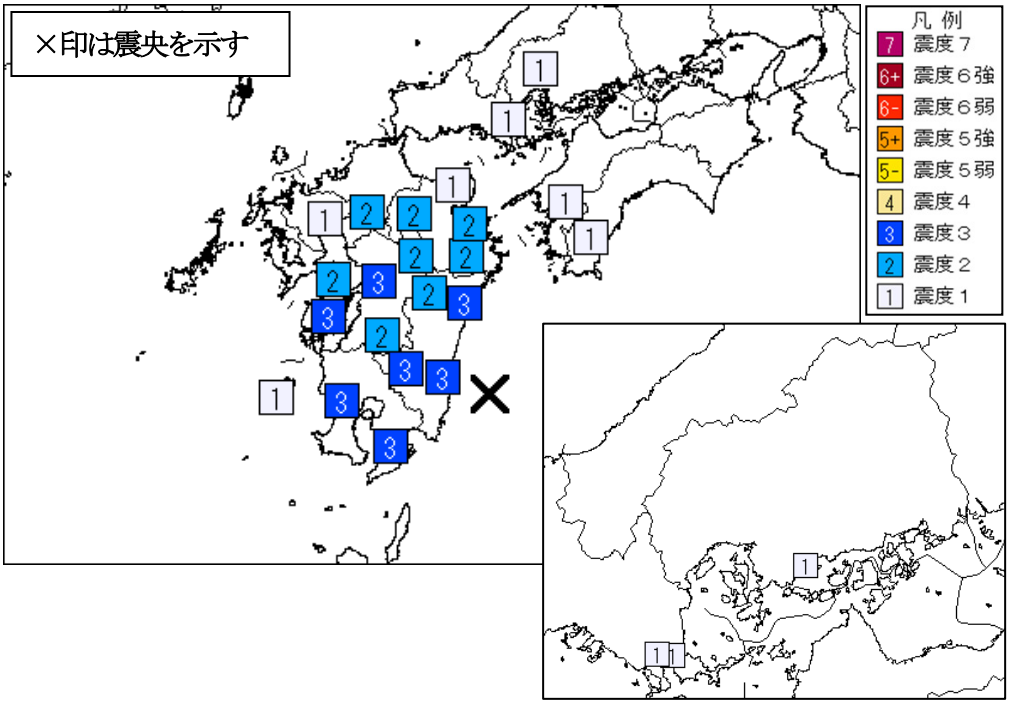
広島県における震度１以上の地震

【震度一覧表】

発震時刻（年月日時分）　震央地名 広島県内の各地の震度	緯度	経度	深さ	M ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2026年10月25日08時59分　日向灘	31° 45.8’ N	131° 52.6’ E	7km	M5.2
―――――― 地点震度 ――――――				
広島県　震度 1 ： 呉市安浦町＊				
2026年10月26日23時11分　山口県東部	34° 19.3’ N	132° 05.9’ E	14km	M3.2
―――――― 地点震度 ――――――				
広島県　震度 1 ： 広島西区己斐＊, 大竹市小方＊, 廿日市市大野＊, 廿日市市津田＊, 廿日市市吉和＊				
2026年10月27日02時15分　広島県南西部	34° 22.6’ N	132° 27.6’ E	18km	M2.9
―――――― 地点震度 ――――――				
広島県　震度 1 ： 広島西区己斐＊				
2026年10月30日23時11分　島根県東部	35° 19.0’ N	133° 13.6’ E	12km	M3.4
―――――― 地点震度 ――――――				
広島県　震度 1 ： 神石高原町油木＊				

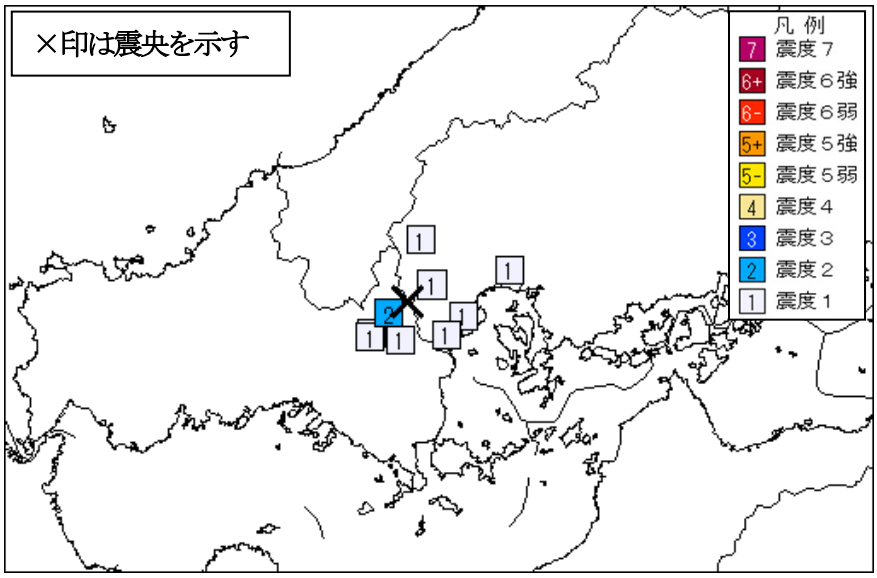
注）震度の地名に＊印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

【震度分布図】

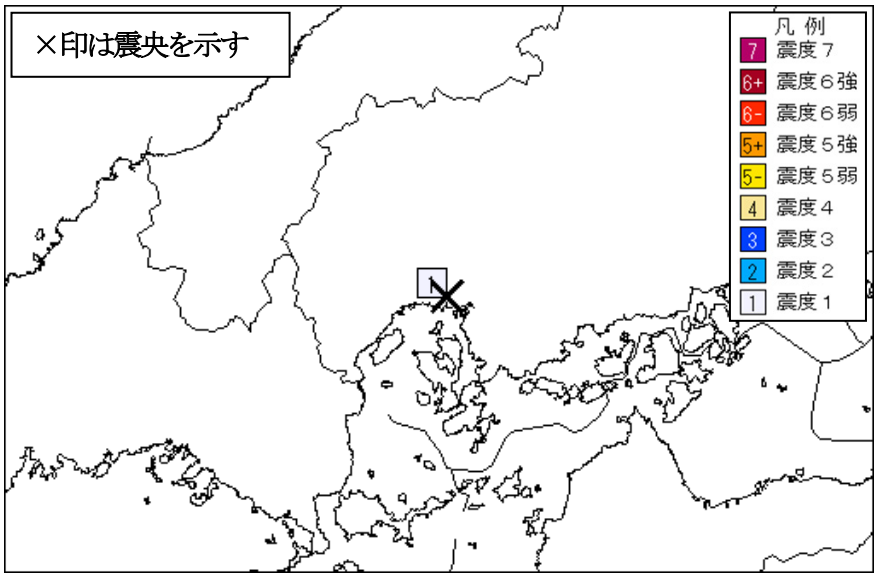


2026 年 10 月 25 日 08 時 59 分　日向灘の地震

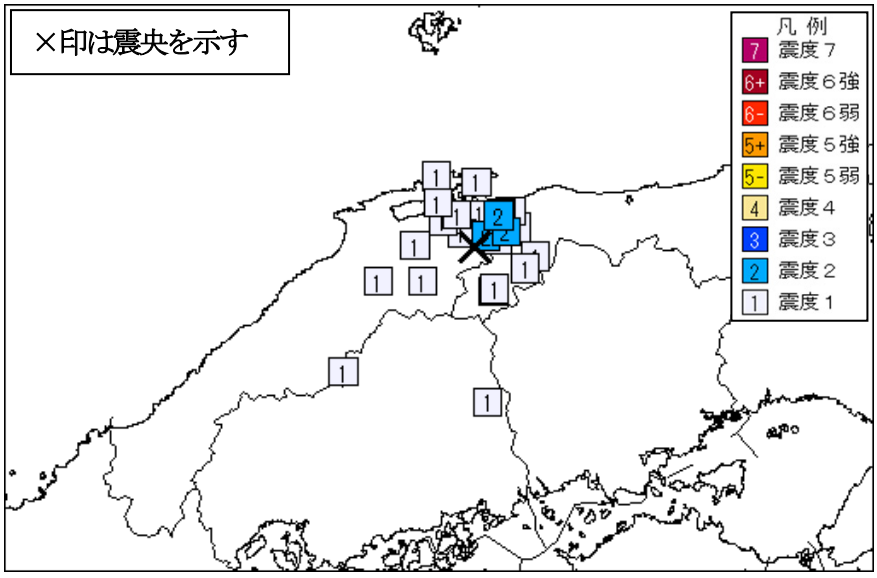
（左上）地域震度分布図、（右下）広島県周辺の観測点震度分布図



2026 年 10 月 26 日 23 時 11 分　山口県東部の地震の観測点震度分布図



2026 年 10 月 27 日 02 時 15 分　広島県南西部の地震の観測点震度分布図



2026 年 10 月 30 日 23 時 11 分　島根県東部の地震の観測点震度分布図

地震メモ　昭和南海地震（1946年12月21日）から80年 ～その1～　第262回

近畿地方や四国地方を中心に甚大な被害をもたらした1946年12月21日04時19分、和歌山県南方沖を震源とするマグニチュード8.0のプレート境界型地震（以下、「昭和南海地震」という。）の発生から今年（2026年）の12月21日で80年の節目となります。今月号と11月号では、昭和南海地震を振り返るとともに南海トラフ地震の特徴や南海トラフ地震臨時情報について解説します。

＜1946年12月21日「昭和南海地震」について＞

昭和南海地震の発生により、北海道から九州地方にかけて震度５～１（当時の震度階級）を観測しました（図１）。また、千葉県の房総半島から九州地方の沿岸を津波が襲い、津波の高さは紀伊半島の南端にある和歌山県の袋で6.6m、三重県、徳島県、高知県の沿岸で４～６mに達しました（図２）。この地震により全国では、死者1,330人、住家全壊9,070棟、家屋流失1,451棟などの甚大な被害が生じ、その多くは津波によるものでした。

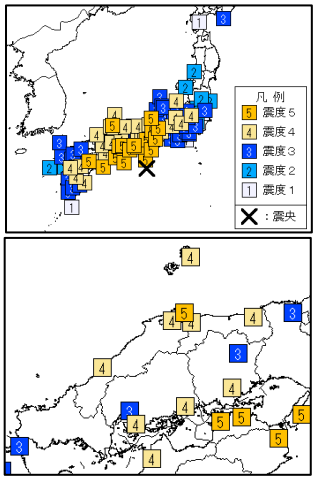


図１　観測点震度分布図
（上：全体、下：中国地方中心）

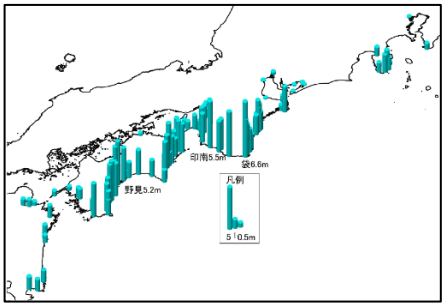
中国地方では、岡山県を中心に地震の揺れによる被害が大きく、中国地方全体として死者62人、負傷者209人、住家全壊584棟、住家半壊2,172棟、道路損壊42本などの被害が生じました。津波については、瀬戸内海沿岸にも襲来しましたが集落への浸水は免れたとされており、顕著な被害の記録は残っていません。

（被害は日本被害地震総覧による）





揺れによる被害写真（岡山県）（岡山地方気象台ホームページより）





津波による被害写真（徳島県）（徳島地方気象台ホームページより）

図２　津波の高さ（地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について」より）

昭和南海地震の発生から80年が経過しようとしている現在では、次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。過去の地震を振り返り、災害から得た教訓を学ぶことにより、突発的に発生する地震に備えておくことが重要です。

（昭和南海地震の記録）

・岡山地方気象台ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/okayama/jishin/showanankai.html

・徳島地方気象台ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/tokushima/shosai/nankai/nankaitop.html

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先
〒730－0012
広島市中区上八丁堀 6－30 広島合同庁舎 4 号館 14 階
広島地方気象台 防災管理官室　　TEL：082－223－3953